川上 高司 ブログ アーカイヴ

2014年

12月2日

難航する国防長官の選出通ー蘇るネオコン

ヘーゲル国防長官の辞任が発表されて以後、新長官の候補リストがどんどん短くなっている。最有力候補といわれていたミッシェル・フロノイは早々に可能性を否定したが、彼女はヒラリー・クリントンが次期大統領に就任した時の国防長官の座を狙っていると言われている。当然ながら初の女性大統領と初の女性国防長官という方がいいに決まっている。

次の有力候補であった国土安全保障省のジェフ・ジョンソン長官も、一刻もはやくリストから外してくれといわんばかりに「関心ありません」と打診される前から防戦を張った。そのほかにも名前の挙がっているジャック・リード上院議員、カール・レビン上院議員らもこぞって無関心を表明し、リストはますます短くなっている。

現時点でリストのトップになっているのは、アシュトン・カーター元国防副長官とロバート・ワーク現副長官くらいである。これほどまでに国防長官が人気がないというのは珍しいのではないだろうか。それほどに現在のアメリカのおかれている状況は難しく厳しいということと、今後 ISIS 政策において派兵と戦争は避けられないと誰もが考えているということだろう。

一方で前ブッシュ政権時代のように外交より戦争優先の政策に前向きで国防長官に関心を高めている人々もいる。共和党でかつて大統領候補ともなったテッド・クルーズはオバマ大統領に対してジョー・リーバマン元上院議員を推挙した。ジョー・リーバマンは強硬なネオコンでジョン・マケイン上院議員と親しい。もちろんマケイン議員もデニス・マックドーノー国家安全保障担当補佐官に対してリーバマンを国防長官にと推している。

本来ならマケイン自身が国防長官に就任したいのだろうが、その可能性はない。そこで大親友を政権に送り込もうというのだ。マケイン自身は、上院軍事委員会の次期委員長になることが決まっている。リーバマンとマケインの組み合わせが実現したら、アメリカの外交が再び強硬路線に転換する可能性はますます高まる。次期長官の選任はアメリカだけでなく世界にも大きな影響を与えるゆえに、目が離せないのである。

12月14日

トルコを取り込むプーチンの地政学

ロシアは天然資源を武器にパイプライン地政学を展開してきた。ウクライナ問題でヨーロッパとの関係が悪化しても、ブルガリアを経由するサウスストリーム・パイプラインの敷設は着々と進めてきた。

だが 12 月上旬､プーチン大統領はついにサウスストリームを断念すると発表した。ロシアのガス最大手ガスプロムの代表は「This is it」とジョークを飛ばして、このプロジェクトを締めくくった。

サウスストリームは黒海を通り主にブルガリアを経由して、南ヨーロッパに天然ガスを供給する。ウクライナを経由しないで安定した供給を南ヨーロッパにもたらすとしてヨーロッパからもまた、供給元であるロシアも期待が高かった。

ブルガリアは当初、ヨーロッパ諸国からの圧力にめげずにロシアの工事を許可し進めようとした。だがウクライナ情勢が悪化の一途を辿り、ヨーロッパ諸国からの圧力がだんだん強まったためパイプラインに対して消極的になり始めた。そのためロシア側が工事を断念したのである。ブルガリアは、ガスを輸送するコストがかかるため今後は年に６億ドルの損失をこうむると嘆く。

セルビアは、パイプラインの敷設という大型事業によって GDP が２％押し上げられると経済効果を期待していた。2008 年には国営のガス石油会社の株の大半をガスプロムに売却してしまっている。セルビアの受けたダメージは計り知れない。

スロベニアにいたっては「お金の問題ではない。エネルギー安全保障の問題だ」と、ロシアとヨーロッパに挟まれた小国の悩みは深い。

一方で今回の断念でめげるロシアではない。欧米の厳しい経済制裁をかわしてきた国である。ロシアはサウスストリームの終了とほぼ同じくして、トルコとのガス契約について供給量の拡大と値下げを発表した。トルコへの供給は「ブルーストリーム」と呼ばれるパイプラインで行われているが、今後トルコとロシアの経済的な結びつきが強まることは間違いない。

それだけではない。ロシアはブルーストリームの拡大とともに、トルコでの原子力発電所の建設契約も固めたのである。ロシアの原発企業であるロサトム（ROSATOM）はアックユに２００億ドルの原発の建設契約を締結したが、さらに 2 基目の建設契約も着々と進めているのである。イスラムスンニ派トルコとは、シリア問題、イランとの関係、チェチェン問題で利害が対立している。にもかかわらずヨーロッパとユーラシアの要衝に位置するトルコとの経済的な結びつきを強めようというロシアの地政学は健在である。